

ICT CONN^eCT 21

遠隔授業 S I G

第 5 回

2018年 5 月 8 日

第5回 アジェンダ

- 新メンバーの自己紹介
- 年間計画と遠隔授業SIG取組 リマインド 10分
- 遠隔教育システム公募について
- 遠隔教育の要件整理とシステムパッケージについて議論
- 「各自治体、学校が相談できる」相談フォームへの、
インプット情報について議論

遠隔授業SIGの活動（アウトプット）

① 「すぐにできる」遠隔教育授業システムパッケージ

② 各自治体が相談できる仕組みづくり

→ ICT Connect21で予定しているWEBに！

年間計画

		2018年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国の動き		予算案		予算成立	担当者入替			企画案概算要求	予算編成作業 (財務省による査定)				
ICT Connect21							▼22日 総会	▼相談サイト開設					
SIG定例会		▼12/26	▼1/25	▼2/26	▼4/3	▼5/8	▼	▼					
システムパッケージ				① システムパッケージ パターン検討				来期用のシステム相談					
仕組みづくり				② 相談サイト 内容詰め									

①提案できるシステムパッケージは。。。

		課題=シーン									
		人口減少社会（へき地）			専門教育・社会教育			院内教育	不登校教育		
		遠隔合同授業	校長会 PTAなど	遠隔ICT支援	専門家講座 プログラミン	英語	地域・まちの しごと		自宅	サテライト (どこ?)	
システム 環境大別	教室と教室	○									
	教室内グループ同士	○									
	One-教室	One (教師)				○	○	○			
		One (児童生徒)							○	○	○
		One (支援員)			○						
	One-One	2拠点			○				○	○	○
複数拠点			○						?	?	

「**教室**という、部屋の設計・運用」

「双方向・同期型」に絞る

- ・ 教室to教室
- ・ 教室toOne

各企業の知見に期待
するところ

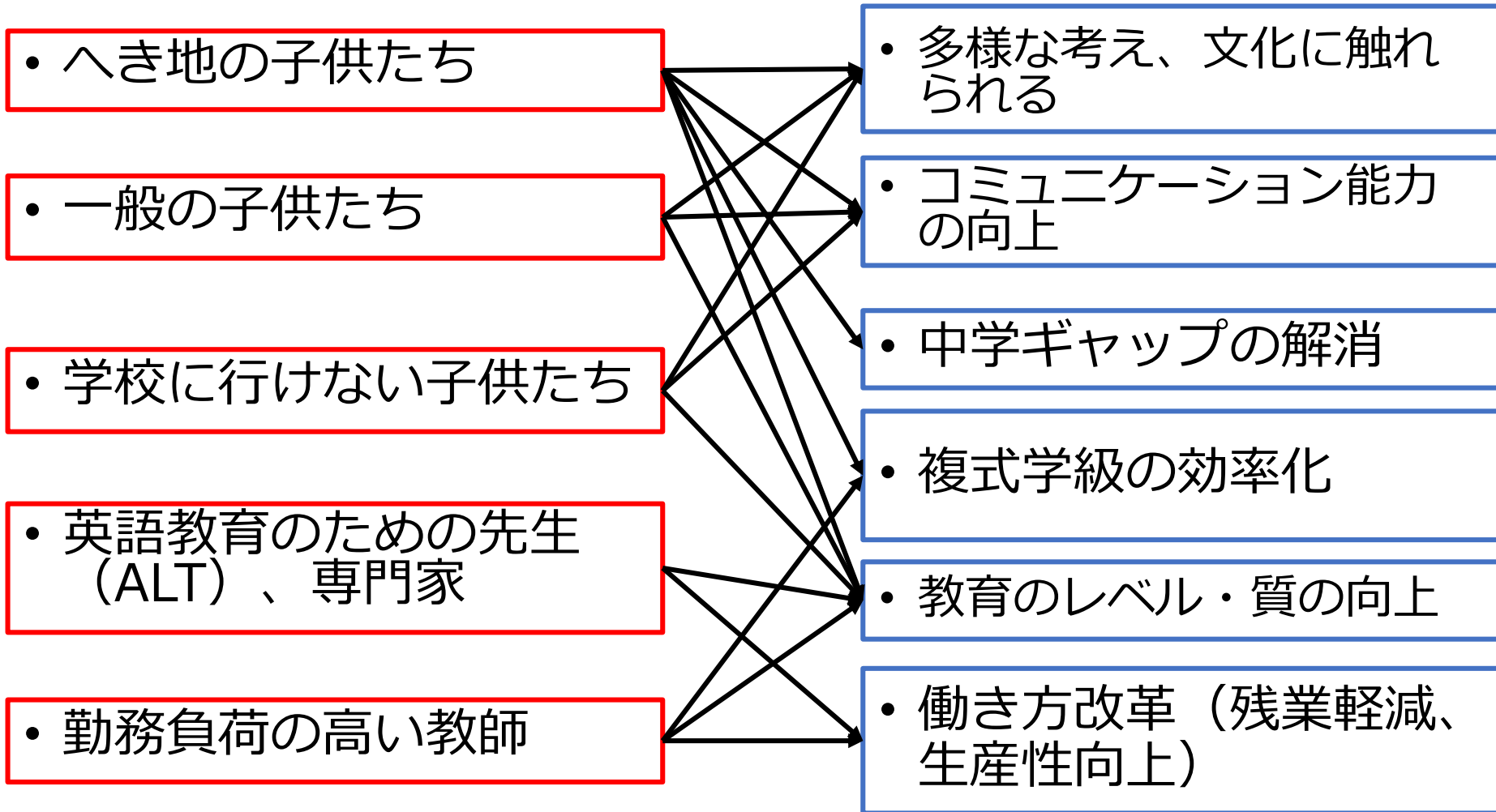
シーンごとの
要件明確化

要件を満たす
システム・技術

双方向・同期型 遠隔教育とは

	同期型	非同期型
双方向	Web会議・ビデオ会議 システムによる 遠隔合同授業 専門家の遠隔教育 不登校・院内教育	
一方向	Live配信講座	MOOCs (ムーク) e-learning オンデマンド型 ビデオ講座

双方向・同期型 遠隔教育は、 だれに、どんな価値を提供するのか？



要件抽出：遠隔教育対象者の特性について

他に対象者はいるか？特性はどんなものか？そこから導かれる要件は？

対象者（児童生徒）	特性
低学年	言語能力は低い／大きめの字、図形を書く
高学年	言語能力が高い／小さめの字を書く／数学はグラフなどに書き込む
複式学級	
院内児童生徒	病状によってできることが異なる（個別指導になる）、学校が限られる
不登校	匿名を望む／個人での接続
対象者（先生・講師）	特性
T1	授業のプロ
T2	授業のプロ、遠隔授業の受け側の意識でコントロール
複式学級先生	複式授業のプロ
臨時採用の教員	
ALT	今後、海外留学生などの可能性もある。
専門家・専門教員	少ない人数で複数授業のかけもちの可能性あり。中学、高校が多い？
まち・地域の人	イベント的。映像・話中心

要件抽出：遠隔教育対象者に必要な機能は？

対象者から導かれる要件は？ 対象者への価値提供。

■要件

ゲスト接続

Interoperability

音声優先（コンテンツ、カメラ映像より、音声が確実に届く）

発話・聞き取りに疲労感が少ない

教室環境 反響ノイズ減
紙・咳ノイズ減

表情・動き

カメラの遠隔操作ができる

カメラ2台接続

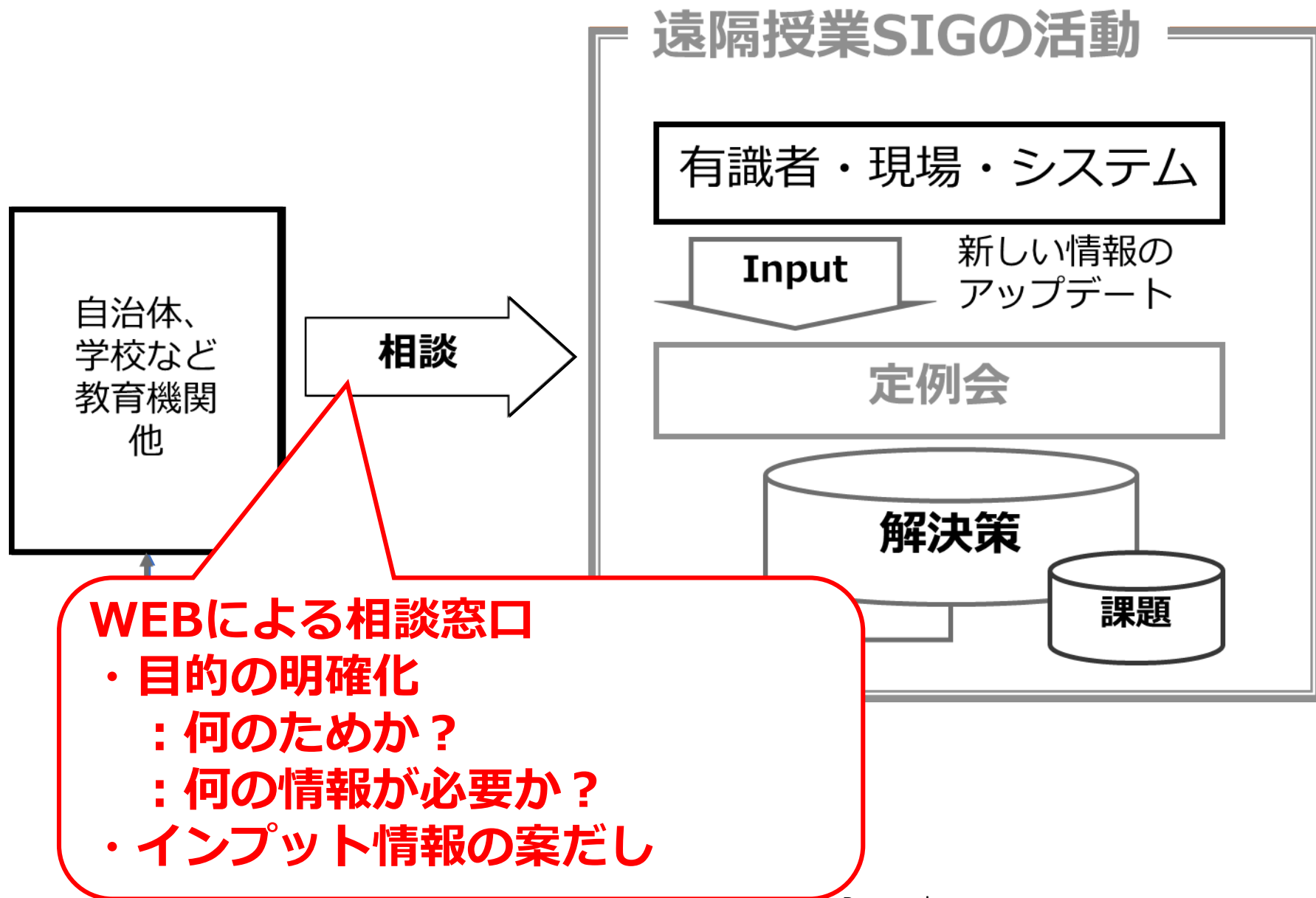
机間巡視 手元がわかる
特定の児童生徒にだけ、ささやくことができる

タイマー（音も）

多様な考え方を俯瞰・比較できる電子黒板連携（双方向書込み）"

チャット機能

② 各自治体、学校が相談できる仕組みづくり



以上